

寒さが厳しくなってきた札幌です。皆様は北海道で一番寒い場所はどこだと思いますか？稚内や網走も寒いのですが、一番寒いとされている場所は『陸別町(りくべつ)』です。

北海道足寄郡陸別町。地図で言うと、帯広市と北見市の中間地点で、阿寒湖の左となります。昨年の状況では、7月の最高気温が34.5℃。12月の最低気温が-24.3℃で、寒暖差が70℃もある町です。ちなみに過去最低気温は-35.5℃。これだけの寒さですが、豪雪地帯という訳ではなく、標高200m～500mの山間に位置し、酪農が盛んに行われています。

私が陸別町へと足を運んだ日には、日中で-11℃という気温で、小さな橋から川を見た時にはほぼ凍っていました。

街中を車で移動した際には、いたる所で『日本一寒い町』の看板を見かけました。そのおかげか私の頭には、『陸別町=日本一寒い町』という情報がこびりついてしまいました。

町おこしの一環として、この言葉に関連した様々な催し物を行っているようです。『しばれフェスティバル』、『人間耐寒テスト』、『世界タオル早回し選手権』など、ユニークなイベントが行われています。

ぜひ一度、冬の陸別町に行ってみてください。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

納豆といえば茨城県だと勝手に思い込んでしまうのですが、それはやはり生産量全国第一位の納豆王国だからでしょうか。今回はそんな納豆王国茨城県で購入した納豆をご紹介します。

買ったのは『舟納豆』という大変有名な納豆です。クラシック音楽を聴かせながら発酵させた国産大豆を使用しており、1個270円と高価です。

自宅の冷蔵庫には、スーパーで購入した3個パックの納豆が常備されているのですが、今回はそれらを無視し、舟納豆に全集中しました。開封の儀から始まり、香り、味、食感を味わいました。小粒で粘り気の強い豆のしっかりした味と香ばしい匂いがとてもおいしかったです。

そして醤油とだし酢を混ぜ、青ねぎと共に卵かけご飯にかけて食べました。私の中ではこの組み合わせが一番のごちそうだと思っています。

納豆に合う食材を決める『N-1グランプリ』においても、卵納豆が一位に輝いていました。二位はネギ納豆、三位はからし納豆となっています。

さて、全国納豆協同組合連合会によると納豆の市場規模は、コロナ禍の2020年に過去最高の2711億円となりました。その後徐々に落ち着きを見せ、2022年は4%減の2489億円となったようです。今は価格の上昇により正確な規模はわかりませんが、国産大豆使用の本格的な納豆だけでなく、外国産の大豆を使用した納豆も同様に値上がりしており、納豆ヘビーユーザーとして頭を悩ませながら購入しています。

次に茨城へ行く時は、茨城名物の『納豆かつ』を食べてみたいなあと思っています。

東日本物流センター東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

KOYORAD

世界の拠点から  
-From the base in the world-



関西では毎年1月9日から三日間、『十日戎』という祭事が各地のえびす神社で行われます。9日が宵戎(よいえびす)、10日が本戎(ほんえびす)、11日が残り福(のこりふく)、三日間を総じて十日戎(とおかえびす)といいます。

七福神のえびす様を祀ったえびす神社は全国に点在しており、えびす神社の総本社である『西宮神社』では、本戎の早朝に行われる福男選びが有名です。

私の地元である尼崎にも、えびす神社があります。厳島神社の大鳥居(16.6m)よりも大きな高さ17mの鳥居がシンボルの『尼崎えびす神社』です。阪神尼崎駅から徒歩圏内にあり、『尼のえべっさん』の愛称で親しまれております。

今年は十日戎が完全に平日だったので、ちょっと早めの8日にお参りをしました。ですが、やはり十日戎にもと、本戎の夜にもお参りに行きました。

さすがの本戎。参拝には長蛇の列が出来ており、40分以上並んでようやく本殿前に着くことが出来ました。家内安全、商売繁盛の縁起物である福笹を頂き、供えられた大マグロにお金を貼り付けました。この大マグロにお金を貼り付けると、福が自分に付くと言われてます。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は『ドミニクドゥーセの店』をご紹介します。

ドミニクドゥーセは職人である店主の名前で、三重県鈴鹿市に本店を構えるパン・洋菓子のお店です。店主のドミニクさんは、第一回F1グランプリが開催された1987年にオファーを受けて来日し、鈴鹿サーキット専属シェフとして活動していました。

その後、『本場フランスの味を、多くの人に届けたい』との想いから、日本で店をオープンさせたようです。以前は名古屋市内にも支店を出していましたが、現在は鈴鹿本店と三重県内の1店舗となっています。

100%フレッシュバター、新鮮な牛乳、純粋なカカオバター原料のチョコレートなど、無添加の素材にこだわって、体にやさしい本当のフランスの味を提供しています。実際に私も色々食べてみました。素材にこだわっているためか、価格はやや割高ですが、おすすめはクロワッサン、クイニーアマン、カヌレです。

オンラインショップもあるようなので、皆様も一度、こだわりの味を試してみたいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

旧年中は、皆様よりたくさんのご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。福岡営業所員一同、力を合わせて信頼にお応えできるよう努めてまいります。本年もこれまで同様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

さて、先月にちょっと立ち寄った、普段は大行列のお店をご紹介します。場所は太宰府天満宮の参道にある『和牛めんたい重 神楽』です。

この日は並んでいる人が少なく、前々から気にはなっていたので、初めて並んでみることに。20分ほどで店内に通されました。建物は景観重要建造物に指定されていることもあって、綺麗で落ち着いた内装がとても好印象です。

早速店員さんへ『和牛めんたい御膳(肉増し)』を注文し、しばらく待っているとワゴンで運ばれてくる立派な木箱。目の前に置いてもらったあと、店員さんから『写真や動画を撮るなら今ですよ。』と某先生のような掛け声が(笑)。

ゆっくりと蓋を開けてもらったその中身は、薄焼きたまごの上に、丸々1本の明太子と山盛りの牛肉。何よりも明太子の存在感が立派です。青しそや海苔がアクセントとなっており、いくらでも食べられるお味でした。

隣接している中庭も風情があって、落ち着いた雰囲気を楽しめます。太宰府観光でお越しの際は、是非お立ち寄りください。おススメです。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)



現在インドネシアで行われている大統領選挙。三人の候補者が選挙運動期間中に行うディベートには、経済、軍事力、食糧など、さまざまなテーマがあります。中でも注目されているテーマは、首都をジャカルタからカリマンタン島東部へと移す『首都の移転に関する法案』についてです。

この計画は、道路の渋滞や大気汚染などジャカルタが抱える問題の解決策として提案されました。現大統領の息子である副大統領候補の一人は、なにがなんでも計画を続行するという姿勢を見せました。

ですが、他の候補者からは「現在のインドネシアの経済状況はあまりよくない。成功するかどうかもわからないことに膨大なお金を使うよりも、経済の回復やインフラ整備などを優先的にやるべきではないのか」といった反対意見が出ています。

ディベートではこの計画の続行と中止、良い点と悪い点などについて、如何に説得力のあるスピーチを出来るかが国民の関心を得るために重要となります。

選挙日の2月14日まで残りわずかですが、この話題がどこまで戦況に影響してくるのか楽しみにしています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～懐かしい香り?～

中国のお正月である春節、2024年はちょっと遅めで2月10日です。中国の春節は、そこらじゅうで鳴り響く爆竹が風物詩でしたが、数年前から騒音や安全、環境の問題で爆竹の使用が禁止となりました。

爆竹は春節以外にも店の新装オープン、引っ越し、結婚式などなど、おめでたい場では必ず賑やかに鳴らされます。縁起もの、魔除けの意味があるのだそうです。その起源は2000年も遡るのだとか。

おめでたい春節には、夜通し爆竹が鳴り渡り、煙のにおいで新年の朝を迎えます。激しい騒音はちょっと困りものですが、お祝いなのでヨシとする、そんな光景があちこちで見られていました。

しかし、あまりの激しさに騒音だけにとどまらず、環境汚染、さらには火災やけが人が多発し、数年前から都市部では禁止に。昨今ではコロナの規制も重なり、私の住むアパートでもあの音を聞くことはなくなりました。火薬のにおいがちょっと懐かしい香りとなりました。

静かな落ち着いた年越しも良いのですが、無いと寂しいという声も多く、最近では限定的に規制が緩和されつつあるようです。今年の春節は、安全第一であのやかまさをまた聞くことが出来るのかもしれません。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

アメリカでは年末のサンクスギビングとクリスマスが大きなイベントで、お正月は日本のような雰囲気ではなく、お休みも一日だけとなっています。元旦にはローズボウル・ゲームが開催され、大学やNFLの試合が放映されました。視聴率は非常に高いのですが、それ以外は普通の休日と変わらないというのが習慣です。

さて、こちらで昨年末から大きな話題になっているのは、やはり大谷選手のドジャース移籍です。日本ほど熱狂的にテレビで取り上げられる事はありませんでしたが、それでも10年総額7億ドルというプロスポーツ史上最大の契約は大きな話題となっています。

我々、南カリフォルニア住民にとっては他州の球団ではなく、近くのドジャースで本当に良かったという気持ちでいっぱいです。エンジェルスも町はアナハイムという場所にありますが、球団名は『LAエンジェルス』です。

日本で例えるなら、関東では東京ヤクルトと読売ジャイアンツ、大阪ではオリックスと阪神タイガースといったイメージでしょうか?

ロサンゼルスダウンタウン近くには、すでに大谷選手の壁画も登場し、今後はインスタ映えスポットになると言われています。移籍発表当日には、背番号17番OHTANIのレプリカユニホームやTシャツの売上が史上最多となり、世界中から注文が殺到。他にもドジャースの入団会見で判明した大谷選手の愛犬デコイ(日本名デコピン)の名前がプリントされた『デコイTシャツ』まで登場し、人気商品になっているようです。

さらにはオリックスの山本投手もドジャースへの入団が決まりました。

開幕はまだ少し先ですが、大谷、山本両選手の活躍や大谷選手が加わった打撃陣のラインナップも楽しみです。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

年初に日本で起きた地震のニュースに、私たちはショックを受けています。被災されたすべての方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っています。

今年のシンガポールの干支は、日本と同じ『辰』。シンガポール国内では、観光地を中心に、龍を模した飾りつけへと変化しています。

シンガポール最大の植物園施設であるガーデンズ・バイ・ザ・ベイでは、巨樹の周りを飛び回る大きな龍や、和太鼓のようなものを叩く子龍など、たくさんの龍がいます。

さらにここでは、旧正月を祝う人気イベントのひとつである『リバーホンパオ(河畔紅包)』が開催されます。美しいランタンが飾り付けられ、ライトアップされるイベントは、2月8日～2月17日までの約2週間、開催されます。多くの人々が訪れることが予想されています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

昨年、オランダ国内では自動車台数が急激に増加しました。現在では940万台もの自動車が、国内を走り回っています。

昨年の新車販売台数は、前年を大幅に上回る37万台。これは主に、2022年にコロナウィルスと半導体不足により延期されていた納車の巻き返しによるものです。年初の数か月間は特に多くの自動車が販売されました。オランダだけでなく、ヨーロッパ全土で自動車販売台数が増加しました。9月の時点で、前年より新車登録台数が17%も増加したにもかかわらず、欧州の自動車市場は未だコロナ禍前の水準には戻っていません。

そしてこの販売台数増加は自動車だけでなく、自動二輪車業界にも起こりました。前年比13%の増加で、2023年は過去10年で最も自動二輪車が販売された年となりました。販売台数は上から順にヤマハ、ホンダ、BMW。最も売れたモデルはBMWの『R 1250 GS』でした。BMWは最も大きな関心を集めていると考えられます。

専門業者による中古二輪車の販売台数は約5万台と前年を若干上回り、個人間の取引は約6%減の13万台となっています。この販売台数増加には、コロナ禍以降、公共交通機関に代わる移動手段として自動二輪車への関心が高まったことが影響しています。

そして自動二輪免許保有者の約4分の1が通勤に自動二輪車を使用すれば、渋滞の軽減につながる見込みがあるという点でも、自動二輪車の走行数増加は、多くの利点をもたらす可能性を秘めています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)